

高橋阿倍野新聞

發行所

大坂市阿倍野区

附錄 1-30-34

大隈陸軍大學

新聞部

大德神龜

此竹葉任君 木本散已

卒業式

第29回

級主任一

Les jour
各

「日」は
近年
を

290

さようなら先輩

卒業生に葉贈る

Les jours s'en vont, je demeure
(2.9.10 - 2.11.10) 11.11.10

の御言葉よりたゞすしに

雪堂城を二十九回卒業式に
お返しした。卒業に因り、マ

冬の寒さが厳しく
いできた今日この頃

近年、現代國語の教科書にも改つちや
るやうになつた。たゞ、マザリネールの「ミ
ラボー橋」の一節がある。卒業式をむか
へるにびに、僕は二の懸轡を一人にする
。諸君よ、行きて給え、新しい何ものかを
穿めて。この時だけ、僕は人柱の橋の
上で、お齒の瑠璃を見送り、君達を見送る。
僕を見ることのできる。

一 程 勝田 洋 一 郎 氏 住

今日の二に暮るの卒業を迎えるにあたり、この學徒の途に「ペリオド」をうづ人もりまたさう。しかし、大半の人達は「ペリオド」をはなれ、「カンマ」をうぢ、また學徒の途を續けるたさう。この三年間の身についた教養は、行動の美しさに花をさえるものだと思ひやる。

こゝらの成長期のワンステップをばし
て、今後の活躍を期待する。
卒業おめでとう。

二智 木下和夫氏注

金剛、菩提、二上、信實の故を明か
はから^て國道を歩む。高遠道路が邪
魔に^ては^りの囁き音が耳に心ゆき
卒業生の言葉を考えてゐることに
なり。教訓めいた言葉も思ひつか
なり。たゞ諸君が「不惑」の耳に達し
たとき、四七プラス一が金剛無事に
成る再会できることを念ひるだけ
の事、世を救ふ道なる道徳をもし

三 益 伊 藤 氏 氏

卒業おめでとうございます。光復年の
知し。と申しますが三坪の日は夢のや
うに過ぎてしまひました。寂しか、三二
と、苦しか、たこと種々の思い出が胸に
染みだすことでした。今は死者の路を順
々の次の言葉とあげてはなむけとしたに
ふさわむ。

幸福人とは、過去の自分の生涯から満足感を得て居る人々であり、不幸人とは、その反対を記録して居る人々である。

泰山轉輿記

私の好きな言葉は甘やかけとしてお贈りします。ハミンググラ^ムイの「老人と海」の中に「人間は打ちのめされるかもしれないが、決して敗北はない」といふ言葉があります。改めた遠な長い人生にお

りて幾多の困難に出くわすことぞし。うが
決して希望を失ふ。これはいけません。とにか
く奮をくりしは、これがは、この下さい
道は自來と開け来るものです。せつち
にな。これはいけません。人間は希望を抱く
ことのできる唯一の生き物なのですから。
こさげなう。さきうら。さき一つのサ
イクルが終った。戦無量へ

五組 森數景行先生

「真境と建角」とを格闘させず。公然たる斗
ひに於いて、あつて真境が負けたためしが
あるか「ミル」云々。

六組 広末昭一先生

卒業おめでとう。これから自分この責任で行動するこが求められるはず。自分自身で自分なりの手かせ足かせを作る。僕のようににたらしめない生活を送ることのなにかを模索する。また暇なときは、元気な顔を見せに来て欲しい。

七編 一 俗義釋

卒業おめでとう。高校といふ三年間の戦
海を終え、次の航海への旅程を志すことにな
るでしやう。航路は、数多くあるが、その
内の一つしか選ばない。無理なく、注意深
く、目を大きく開き、よく聞き、よく考え
ずう。船長は君だ。その希望と勇気をも、
この航海を導くべし。諸君の無事は航海を終
る。

八通 山口 廣永 出 庄

卒業式にあたって、日頃お世話になってきた三年生の方に、今の気持ちを次のような質問を通じて答えてもらった。

- ① 高校生生活三年間で何を学んだか。
- ② 三年間で一番印象に残ったことは何か。
- ③ 現在の希望は何か。
- ④ 卒業という言葉からうける第一印象。
- ⑤ 卒業式の必要性。
- ⑥ 在校生に対して。
- A(男)
- ① クラブ。
- ② 別にない。
- ③ 自由になりたい。
- ④ 寂しい。
- ⑤ けじめとして必要。
- ⑥ 治気がない。
- B(女)
- ① クラブ。
- ② 何もかも。
- ③ 遊ばない。
- ④ 希望・出発。
- ⑤ 区切りとして必要。
- ⑥ 縦のつながりに乏しい。
- C(男)
- ① 人間形成につくした。

卒業式から残る者へ

- ② クラブ。
- ③ 大学合格。
- ④ 課程を終えた感じ。
- ⑤ 別に必要はない。
- ⑥ 一部だけが活発で、残りは放任主義である。
- D(女)
- ① 別にない。
- ② 修学旅行。
- ③ 思いやりを学ばない。
- ④ 寂しい。
- ⑤ 必要だと思う。
- ⑥ 活発だ。
- E(女)
- ① 自治会活動。
- ② 修学旅行。
- ③ 遊ばない。
- ④ 出発。
- ⑤ あった方がよい。
- ⑥ 昔の方がしつかりしていた。実力があつた。
- F(男)
- ① わからない。
- ② 修学旅行。
- ③ 合格したい。
- ④ ひと区切り。
- ⑤ なくともよい。
- ⑥ 勉強の差が教えられるようにインテンシブに六人を取りあげてみた。このほかの人もこのについてはクラブが多数で、②については

修学旅行、③については大学合格、④については寂しい。出発など、⑤についてはけじめとして必要、⑥については色々と思ひがあり、クラブが悪くなつてきた。活気がない。生気である。怠慢である。がんばつてほしいなどがあつた。

忙しき時期であつたせいかなし、やわからないうなだ。学年のせいかな、おちついてたがかなり個性的な人とそうでない人がいたようだが、私は、三年生のおちつきは見習うべきであるが、自治会

活動の不調はしりぞいて、我々もそれを受けついでいるようだ。学年のせいかな、おちついてたがかなり個性的な人とそうでない人がいたようだが、私は、三年生のおちつきは見習うべきであるが、自治会

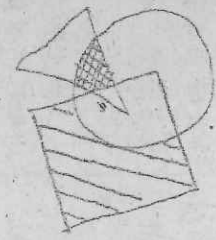
聖火十九日旅行

今回の聖火は、全県投擲といふ方法となり、今日、この卒業式(二月二十五日)の日をもつて旅行された。

それで、今までと違い、全県投擲を行なつた結果を編集委員にたずねてみたところ、「みんなに聖火の存在を認識させることができ、そういう意味では非常に意義があつた

活動不調は打開しなければならぬ。

卒業とは、一年間、二年間どんな形にしろもお世話になつた人々とのバトンタッチである。三年生は、「卒業なんて遠いものだと思つていたら」と言うが、我々もそうであつた。しかし、自分の卒業式も一年後、二年後に来ることなのである。今、三年生の気持ちになることはできないであらうが、在校生一人一人が心から見送ることはできるであらういや、そうするべきではないだろう。



水に、文芸や体育祭と同様、だけの価値があるはずであり、また、唯一の生徒自身の意見の場なのだから、今後、みんなにもっと関心を示してほしいとのことだ。

針の穴

阿倍高生米通テストの結果。と言つて、「何やそれ」と言われようですが、まあ読んでみて下さい。まず、道徳観念・二十五点。胸に手をあててよく考えて下さい。朝礼態度・五十点。かなり静かだと思ひますが、腹の中では何を考へているやら。どういふこんな事もありました。放課後突然の放迷。「校長室様の窓を割つた者、すぐに職員室まで来なさい。」阿倍高生への先生の信頼・百点。▼自治会活動。二つに分けて、まず、クラブ活動は八十点。夕方おそく先生に「早く帰れ」と言われ、それまでは、時によつてはならぬまでも、おちつき。次に委員会・十点。出席率の悪さ。とさたら天下一品です。▼やま。これが最後の科目。三無主義について。六十五点。というより、三無主義に徹している人、百人中六十五人とでも言ひます。ようが、穴が二つもあつては、原級留置もなきにしもあらず。みんなが補修授業でも受けますか?



〜クラブモナス

世評調査

100

■ クラスマツチに 触れ合いの夕日・戸に

二月五日から開催された
クラスマツチは、大したケ
ガ人もなく無事終了した。
優勝

二年男子(ラビー)二ノハ
二年女子(バスケット)二ノニ
二年女子(ハンド)二ノ五
一年男子(サッカー)一ノ一
一年女子(バスケット)一ノ一
一年女子(バレー)一ノ五

部 説

去る二月三
日、このこ
とで五十一
年度後期執行部
が成立した。

さて、今回
は二度も補充
選挙が行なわ
れたが、立候

補者は自分の知名度に自
信があるのかほとんど活
動らしい活動はしなかつ
たようである。その結果
中には選挙当日に候補者
の顔も知らなければ名前
も知らないといった生徒
が一度きりの放送のみを
聞いて「O.M.E.」をつけて
投票するという、まことに
奇妙なことになった。

考え直そう 一票の重み

いものである。

また、た一度の放
送だけで立候補の主旨を
述べる方法であるが、突
然主旨を述べたてられ聞
き返しのきかない演説で
は聞き終わると「あれ？
今の候補者はいつたい何

このクラスマツチで、
クラスが一つになつて競
うことの素晴らしさを、
胸に焼きつけた人も多
いと思う。そこで思うの
だが、このような形で、
H.R.をみんなで使えない
ものだろうか。何もいさ
り、難しい題材の話し合

いをしてというのではな
い。例えば今度クラスが
替わった時など、みんな
でゲームなどをやってみ
てはどうだろうか。ただ
やるのでは面白くないと
いうのなら、負けた方が
ネクシー一本ずつおごる
ということにすれば、新
しいクラスの人でも、た
やすく一つになれるだろ
う。最初はそんな簡単で
楽しいことをやって、た
まには自分達の口癖の不

今回のような奇妙な選
挙にならないうちに今後
候補者は対立候補者がい
ない場合でも一人一人に
自分が候補者であること
を知ってもらう意味では
非とも遊説してもらいた

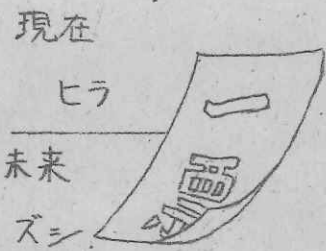
が言いたかった。たのぞう
という場合が強い。そし
て、この上にホームルー
ムが少しでも騒がしいと
へいれ自体おかしいが、
まったく候補者が何を言
ったかわからなくなつて

北中君逝去

去る二月一日に二年三
組の北中武治君が亡くな
られた。死因は心臓梗塞
ということである。彼は

有権者が立候補者をよく
知るということでは自治会
をよりよくするために、
非常に重要なことである
し、また、絶対急つては
ならないことだ。

自治会無関心がささや
かれる今、もう一度自分
の一票の重みというもの
を考えてもらいたいもの
だ。



と、いうことのようなご
く身近なところから考
えてみてはどうだろうか。

クラブ活動にも、たいへ
ん力を入れており、剣道
部と山岳部を両方に所属
していた。そして、死ぬ
間際まで、剣道の練習に
励んでいたようだ。

また、彼の死により、二
年三組のクラスメートは
テープに全員の声を吹き
込み、彼の柩におさめた
り、今度のクラスマツチ
にも改めた意志を燃やし
て、北中君の霊前に優勝
を誓ったという。結果は
男子ラグビーは、惜しく
も優勝を逃したものの、
堂々と準優勝。女子も健
闘した。クラスメート
同じクラブの仲間達、そ
の他たくさん仲間達の
友情に囲まれながら旅立
つていった北中君に対し
この場をかりて、哀
悼の意を表し、御冥福を
祈りたい。

編集後記

さゆやかに松風 奏するくこの
音、わかれ目を流れて、ここに学
ばん ああ阿倍野高校 理想の学
園 われらつゆに春らか

さて、みんな、この校歌の節が
すうすうとでてきたかな？ まあ
母校想いの阿倍高生のことだから
覚えていたことだろう。校歌とい
うものは、学校のシンボルの一つ
なので、今日、卒業する三年の人
は時にいつまでも胸の奥に残して
ほしいものである。

自分の長い(短かい?)人生の
中で、自分の出身校は、この阿倍
高以外にない。この因縁めいたつ
ながりは、自分のこれから的人生
を大きく転換させるかもしれない
のだ。いや、今、現在、ある方向
へ人生が、動き続けているのかも
しれない。これだけ重要なつな
がりは、卒業証書だけでは、あま
りにも事情過ぎるのではないと思
うのだ。もう一度、校歌などの心
に響かすことのできるつながりを
大切にしたい。この新聞
も、卒業記念の一つとして、いつ
までも、残してもらいたいと思う

